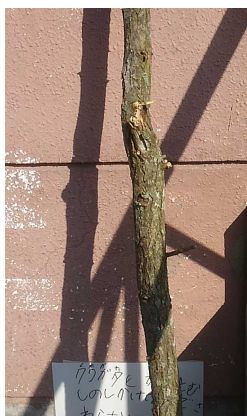


「自然体験は子どもの感性を豊かにする」



クワガタ虫の木

- かつの校の花壇には、高等部農園芸班の生徒が育てた蝶のような可愛らしい花びらと、白やピンク、紫、青、黄などの様々な色のピオウが咲いています。玄関横には、中学部の昆虫大好きなKさんがクワガタ虫をおびき寄せるための木が立っています。玄関に入ると、小学部のSさんが名付けた「パープル」と「でめきん」の2匹の大きな金魚が水槽の中を所狭しと泳いでいます。さらに高等部棟に入

っていくと、高等部の金魚博士のMさんが自宅から持ち込んだ金魚が元気に出迎えてくれます。

- 校舎の周りには、小学部や中学部の子どもたちが学級の時間を利用して植えた野菜畑があります。間もなく、高等部生が借りている畑に大豆を植え、収穫後に地域のお豆腐屋



小さなサツマイモ畑

さんに依頼して、豆腐やドーナッツを作って販売します。今年初めて小学部高学年の子どもたちが、バケツという田んぼでお米作りに挑戦しています。

- 子どもに必要な体験として、「生活体験」、「自然体験」、「社会体験」の三つがあります。小さな生き物や草花を育てたり触れたりする「自然体験」は、子どもたちの五感を刺激して探究心や好奇心を育むと



バケツの田んぼ

ともに、言葉を豊かして想像力を高めます。また、友達と一緒に育てることで、思いやりや協力する大切さを学ぶ機会になります。子どもたちの中には、生き物の世話をすることが自分の役割となり、登校につながったケースがあります。

- 生き物を育てる活動には、子どもたちが興味・関心を持ち続ける仕掛けと、「太陽」、「水」、「肥料（餌）」に加えて、大きく育つように願う「愛」が必要となります。子どもたちの力を引き出すためにも「愛」が大切です！